

# 中部地方整備局浜松河川国道事務所の防災対策の取り組み 水防災意識社会 再構築ビジョン

資料 8

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「**水防災意識社会 再構築ビジョン**」として、全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

**<ソフト対策>** ・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

**<ハード対策>** ・「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

## 主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。

### <危機管理型ハード対策>

- 越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策の推進

#### <被害軽減を図るための堤防構造の工夫(対策例)>



### <洪水氾濫を未然に防ぐ対策>

- 優先的に整備が必要な区間において、堤防のかさ上げや浸透対策などを実施

### <住民目線のソフト対策>

- 住民等の行動につながるリスク情報の周知
  - ・立ち退き避難が必要な家屋倒壊等氾濫想定区域等の公表
  - ・住民のとるべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
  - ・不動産関連事業者への説明会の開催
- 事前の行動計画作成、訓練の促進
  - ・タイムラインの策定
- 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供
  - ・水位計やライブカメラの設置
  - ・スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供



家屋倒壊等氾濫想定区域 ※

※ 家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域

# ◇天竜川下流水防災協議会の取組

浜松河川国道事務所

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「**水防災意識社会 再構築ビジョン**」として、全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成**32**年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。



## ＜水防災協議会の取組＞

- 危機管理型ハード対策を含め、**ハード対策の河川整備を計画的に進めていきます。**
- 住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」についても、重点的な課題として取り組めます。

## ■5年間で達成すべき目標

広域に天竜川の氾濫水が拡散し、県管理河川の氾濫域と重複する特性や、通勤・通学者など流入人口が多い特徴を踏まえ、天竜川下流で発生しうる大規模水害に対し、

**「水防災を意識して命を守る」**

**「迅速かつ確実な復旧を行う」**

ことを目指す。

## ■目標達成に向けた3本柱の取組

1. 住民等に**防災を意識してもらう**ための取り組み

2. 住民等に**避難行動してもらう**ための取り組み

3. 洪水氾濫による被害の軽減のための **水防活動・排水活動**の取り組み

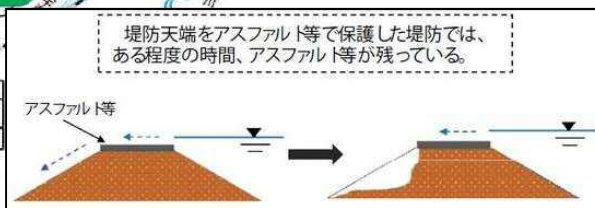
# ◇天竜川下流水防災協議会の取組

浜松河川国道事務所

避難の時間を少しでも延ばすよう、**堤防構造を工夫する対策(堤防天端の保護:3.1km)**を平成32年度を目途に、今後概ね5年間で実施。

危機管理型ハード対策  
概要図  
＜天竜川下流＞

実施区間延長 (重複無し)	内訳	
	天端の保護	裏法尻の補強
3.1km	3.1km	-



凡例  
■ 天端の保護  
■ 裏法尻の補強



堤防へ雨水浸透の抑制、越水した場合の堤防崩壊を遅らせるために、堤防天端をアスファルトにより保護。  
H28年度実施：東海道新幹線、JR線、東名高速等の左右岸上下流の堤防天端 L=2,157m



着手前



完成後

JR線天竜川橋下流(磐田市側)

他の防災機関のヘリコプターから位置情報を共有し、被災状況などを迅速把握するために、堤防天端アスファルトに橋梁名、河口からの距離などの位置情報(ヘリサイン)を明示。順次全川に拡大予定。



JR天竜川橋



東名高速天竜川橋

# ◇洪水浸水想定区域図(天竜川)の公表

浜松河川国道事務所

背景

水防法の改正 [H27.5.20公布 H27.7.19施行]

多発する浸水被害への対応を図るため、想定し得る最大規模の洪水に係る浸水想定区域制度への拡充。

H27.9関東・東北豪雨



H24.7九州豪雨による白川



H26.8豪雨(徳島県)



# ◇洪水浸水想定区域図(天竜川)の公表

浜松河川国道事務所

洪水に係る浸水想定区域について、河川整備において基本となる降雨を前提とした区域から想定し得る最大規模の降雨を前提とした区域に拡充



河川整備において基本となる降雨を前提とした浸水想定区域  
(浸水深)



想定し得る最大規模の降雨を前提とした浸水想定区域(浸水深)



ハザードマップの作成・公表(各市)

## 今回新たに公表した図(想定最大規模)

- ・洪水浸水想定区域(浸水継続時間)
- ・家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流、河岸侵食)

洪水浸水想定区域図は浜松河川国道事務所のHPでご覧いただけます。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/hamamatsu/mosimo/tenryu.html>

# ◇大雪時の放置車両排除訓練を実施

浜松河川国道事務所 道路管理第一課

日時：平成28年12月8日（木）14:00～15:00

場所：国道474号三遠南信自動車道 浜松市北区引佐町別所地内（95.7～96.0Kp付近）



協力機関：中日本高速道路株式会社東京支社浜松保全・サービスセンター  
参加機関：静岡県警本部交通部高速道路交通警察隊浜北分駐隊、細江警察署  
静岡県交通基盤部道路局道路保全課、袋井土木事務所、浜松土木事務所、浜松市役所  
浜松市消防局、新城市役所



【出張所長がスタック車両運転手に移動を要請】



【スタック車両をレッカー移動】



【車両排除が終了し除雪を再開】

## 《訓練の目的》

災害対策基本法の改正に伴い、災害等で放置車両が発生した場合に直ちに道路啓開を進め、緊急車両の通行ルートを迅速に確保するため、道路管理者による放置車両の移動について実働訓練を実施し、能力向上に努めるものである。

## 《連携・情報共有》

交通管理者、道路管理者だけでなく、沿線自治体との連携・情報共有が非常に大事で欠かせないものであることから、今回より新城市も参加いただきました。

## 《今後に向けて》

スタック率の高い大型車や、普通車と取り扱い方法が異なる電気自動車等を想定した訓練の実施を検討する。